

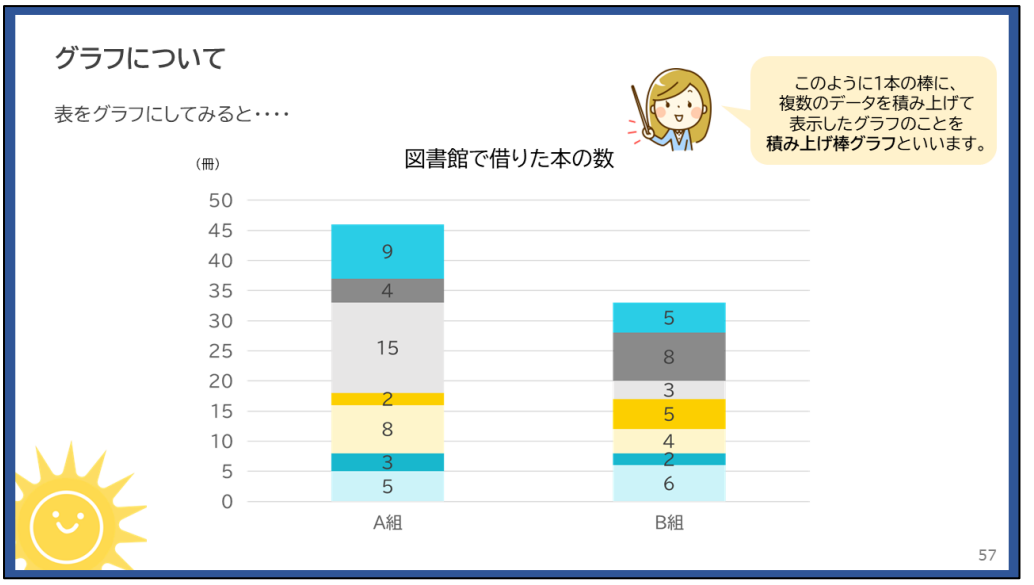
【スライドの簡単な解説】
・代表値を用いてデータの特徴をつかむことも大事ですが、グラフを用いると、データの全体像をとらえ特徴をつかむことが簡単にできます。

【このページのポイント】
・グラフを用いると、代表値の数値だけでは伝えることが難しいデータの全体像とその特徴を分かりやすく伝えることができます。
・この章では、グラフを分かりやすく書くためのコツを勉強していきます。



【スライドの簡単な解説】
A組とB組のこどもたちが図書館で借りた本の冊数を比較した表から、どちらのクラスが多く本を借りているかを考えます。

【このページのポイント】
A組とB組のデータを比較したときに、表の数字からなんとなくA組の借りた本の数が多いことがわかります。



【スライドの簡単な解説】
前のページの表を積み上げ棒グラフにして見てみます。

【このページのポイント】
グラフで表すことによって、表で見るよりもさらにはっきりとどちらのクラスが多く本を借りているかが分かります。

【キーワード】
積み上げ棒グラフ…1本の棒に、複数のデータを積み上げて表示したグラフのこと

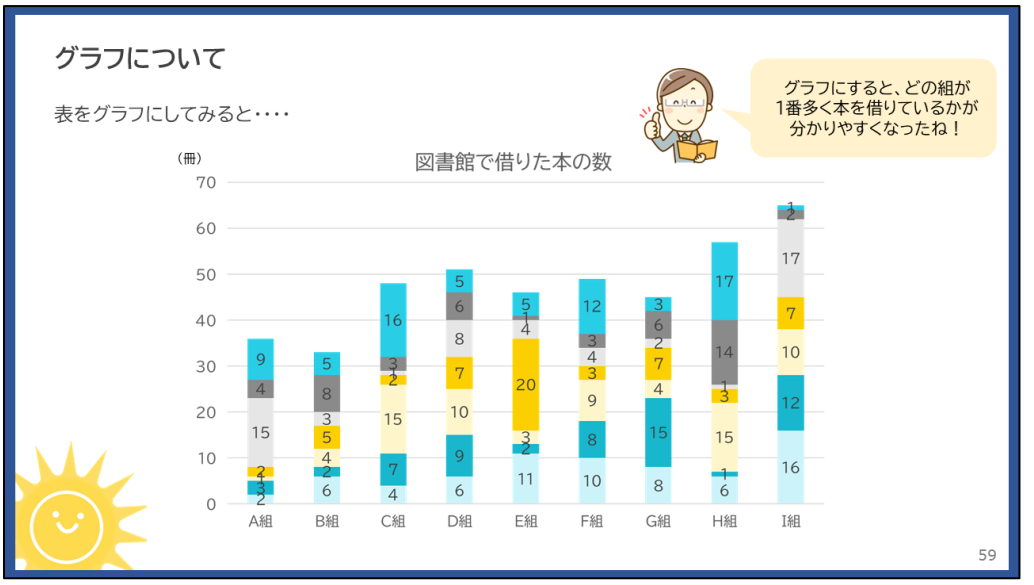


【スライドの簡単な解説】

A組からI組の9クラスが図書館で借りた本の冊数を比較してみて、どのクラスが多く本を借りているかを考えます。

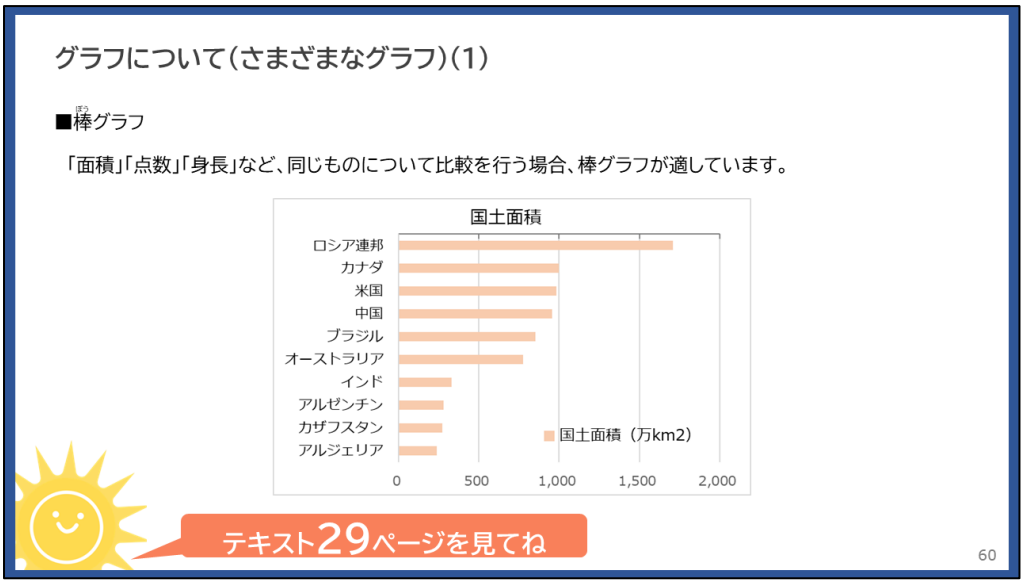
【このページのポイント】

データがたくさんあると、表だけでは比較が難しいことがわかります。



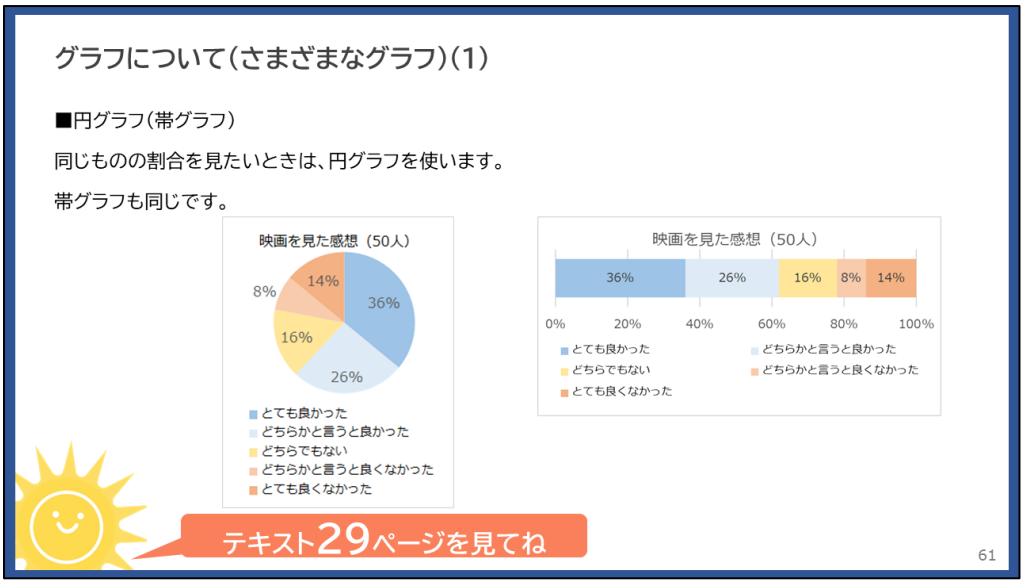
【スライドの簡単な解説】
前のページの表を積み上げ棒グラフにして見てみます。

【このページのポイント】
グラフで表すと全クラスの比較がしやすくなり、一番借りている冊数が多いクラスはI組だということがわかります。



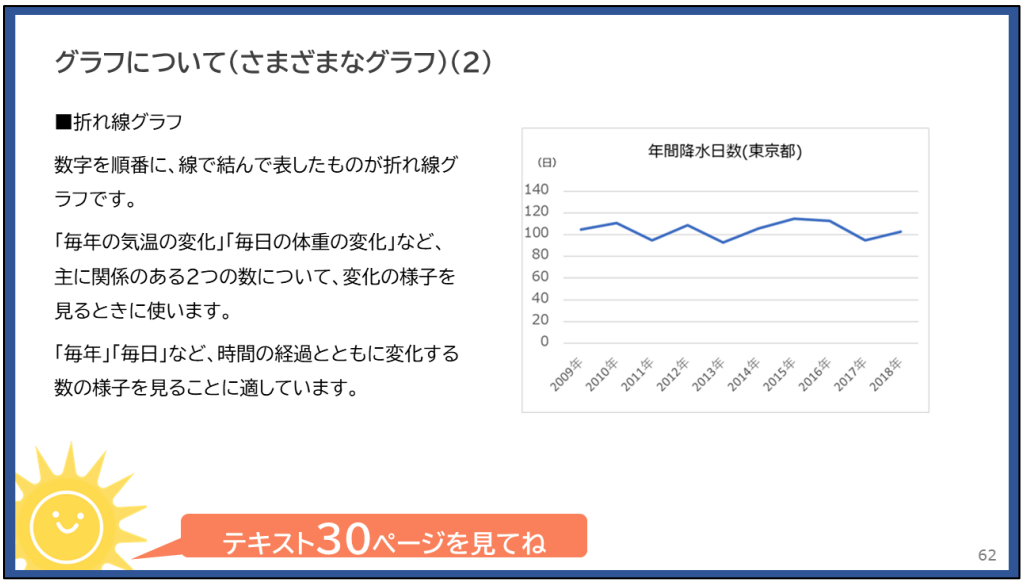
【スライドの簡単な解説】
棒グラフとは数量を棒の長さで示したグラフのことです。

【このページのポイント】
「面積」「点数」「身長」など、同じものについて比較する場合は棒グラフが適しています。
たとえば、国の国土面積を比較する場合には、棒グラフが適しています。



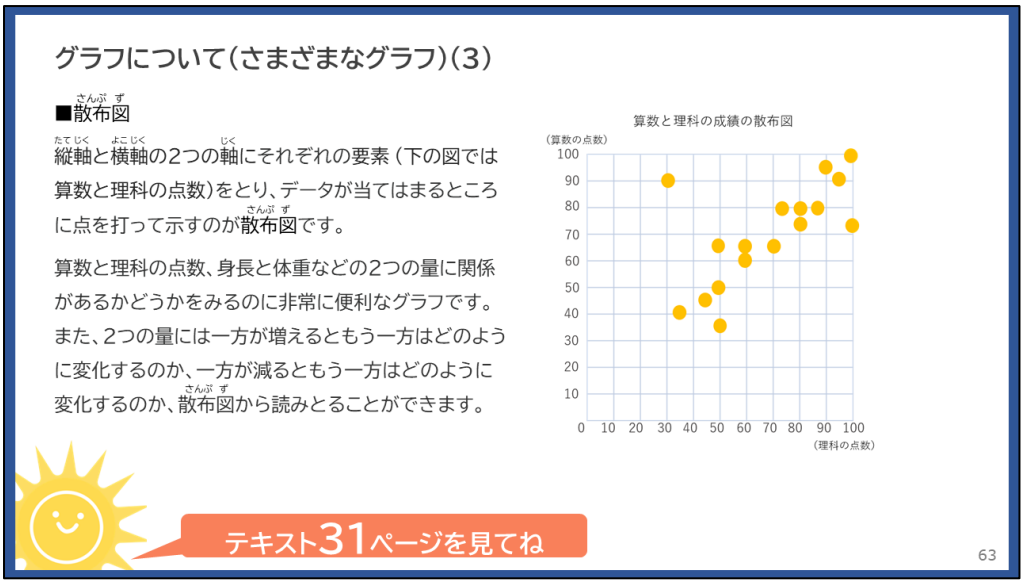
【スライドの簡単な解説】
円グラフは、割合の大きさをグラフに表したものです。

【このスライドのポイント】
同じものについての割合を見たいときは円グラフ・帯グラフを使います。
たとえば、映画を見た人の感想(「とても良かった」から「とても良くなかった」までの５つの回答)で、それぞれの感想の割合を見たい場合には円グラフ・帯グラフが適しています。



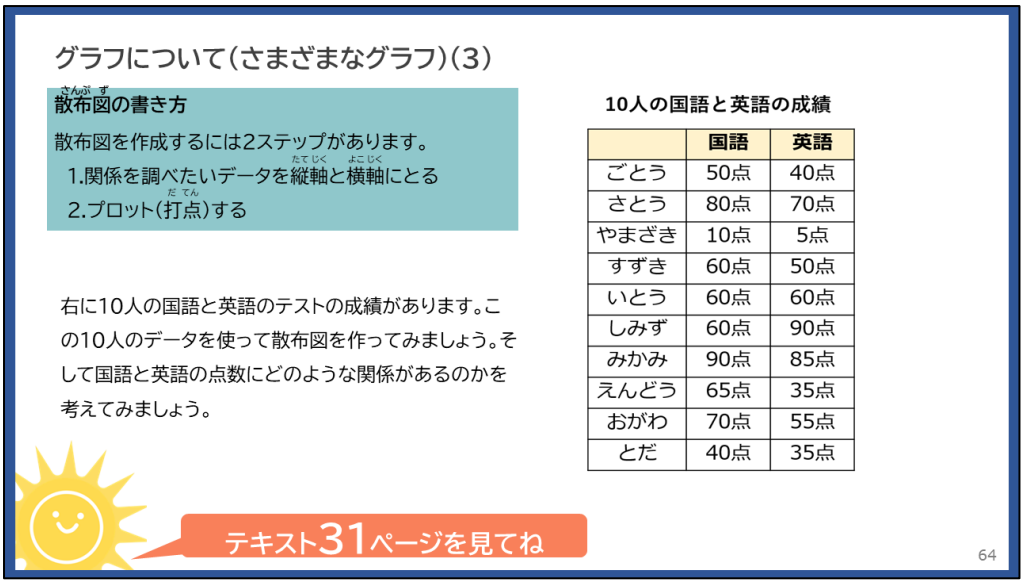
【スライドの簡単な解説】
折れ線グラフとは、数字を順番に、線で結んで表したグラフです。

【このページのポイント】
「毎年」「毎日」など、時間の経過とともに変化するデータの様子を表すには折れ線グラフが便利です。



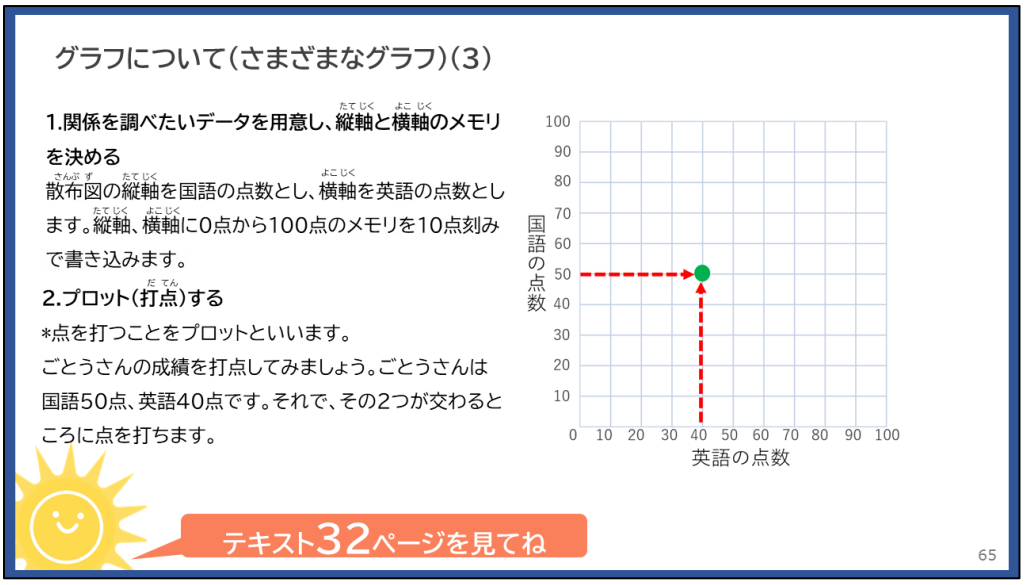
【スライドの簡単な解説】
散布図とは、縦軸と横軸にそれぞれの要素をとり、データが当てはまるところに点を打って示したものです。

【このページのポイント】
２つの要素にどのような関係があるかを読み取るのに便利なグラフです。



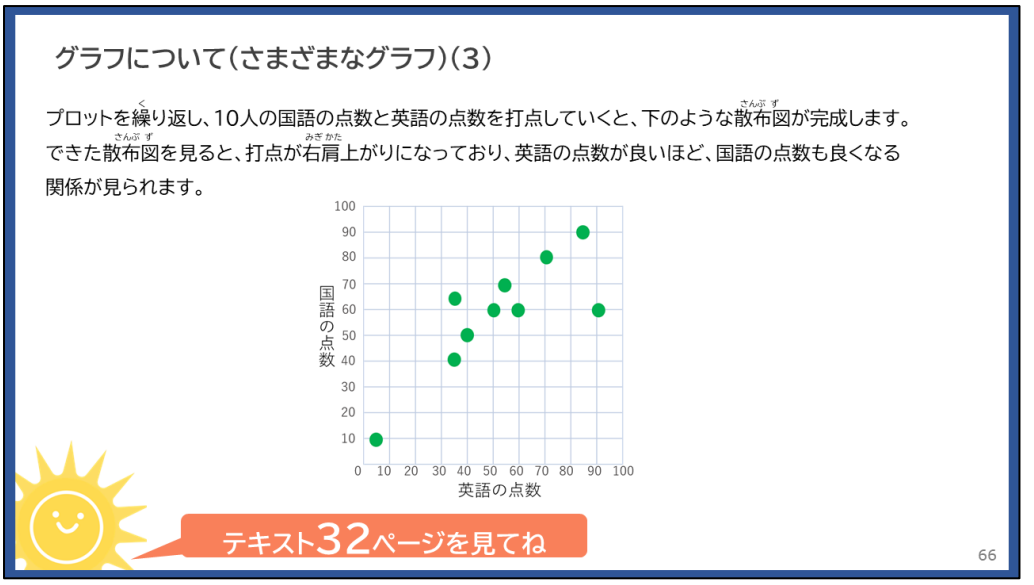
【スライドの簡単な解説】
散布図の書き方に関する説明です。

【このページのポイント】
散布図を作成する手順は、まず関係を調べたい要素を縦軸と横軸にとります。次にデータが該当する場所にプロット（打点）します。



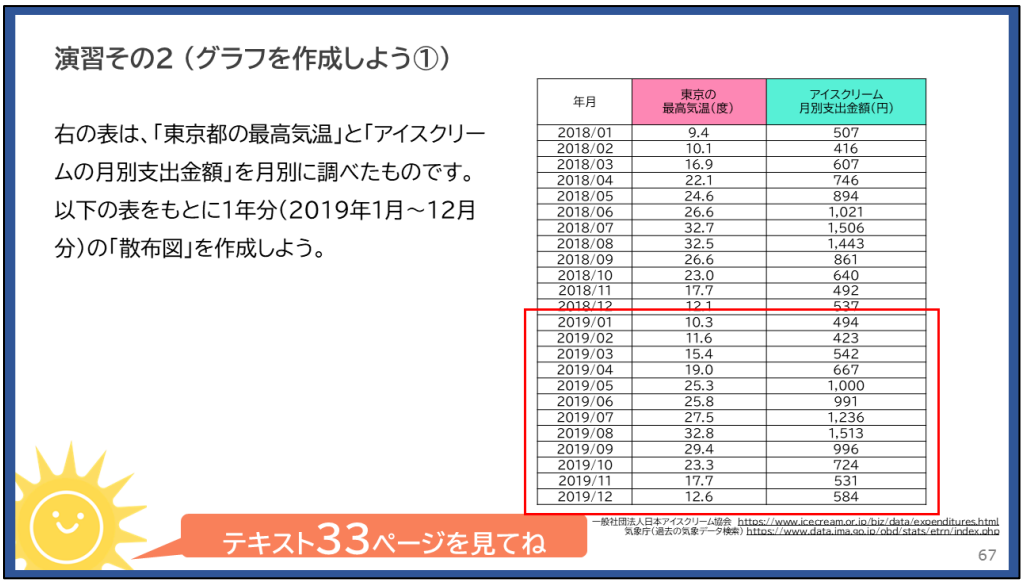
【スライドの簡単な解説】
前のページの説明に習い、実際に例題を使用しながら作成していきます。

【このページのポイント】
ここでは、ごとうさんの国語と英語の点数が交わるところをプロットしてみます。



【スライドの簡単な解説】
実際に例題を使用しながら作成していきます。

【このページのポイント】
全員の国語と英語の点数が交わるところをプロットすると散布図が完成します。
散布図を見ると右肩上がりにプロットされており、英語の点数が良いほど、国語の点数が良くなるという傾向がみられることが分かります。



【スライドの簡単な解説】

2019年1月～2019年12月の「東京都の最高気温」と「アイスクリームの月別支出金額」の関係を示した散布図を作成します。

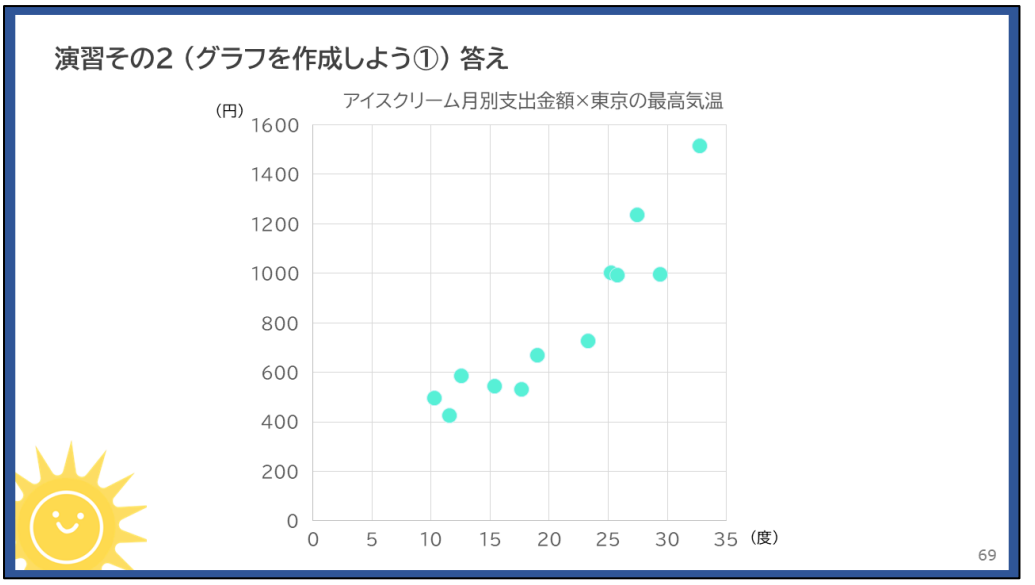
【このページのポイント】

２つの要素にはどのような関係性があるか散布図を使って考えます。



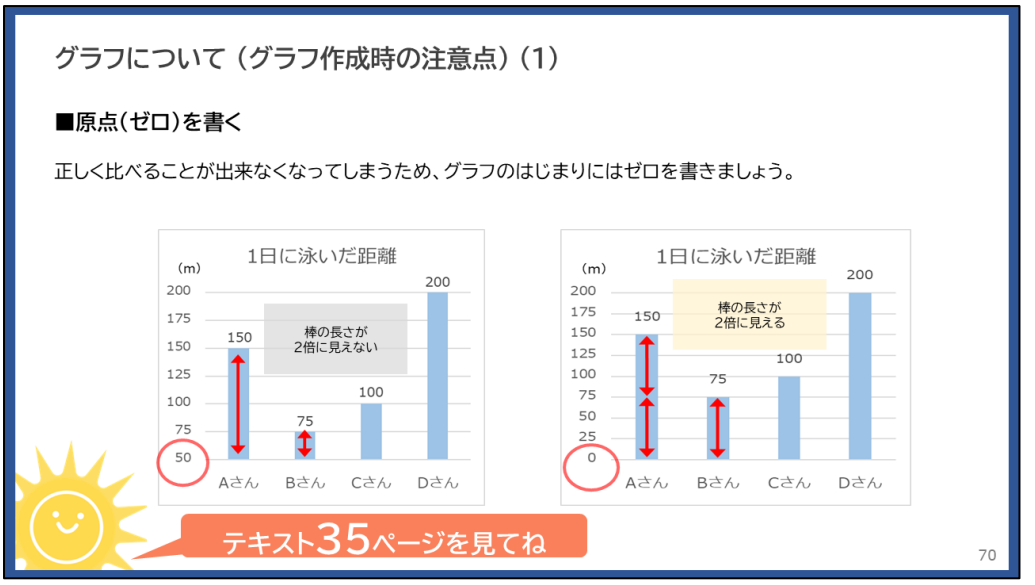
【スライドの簡単な解説】
2019年1月～2019年12月の「東京都の最高気温」と「アイスクリームの月別支出金額」の関係を示した散布図を作成します。

【このページのポイント】
前のページのデータを見ながら、該当する場所にプロットしていきます。



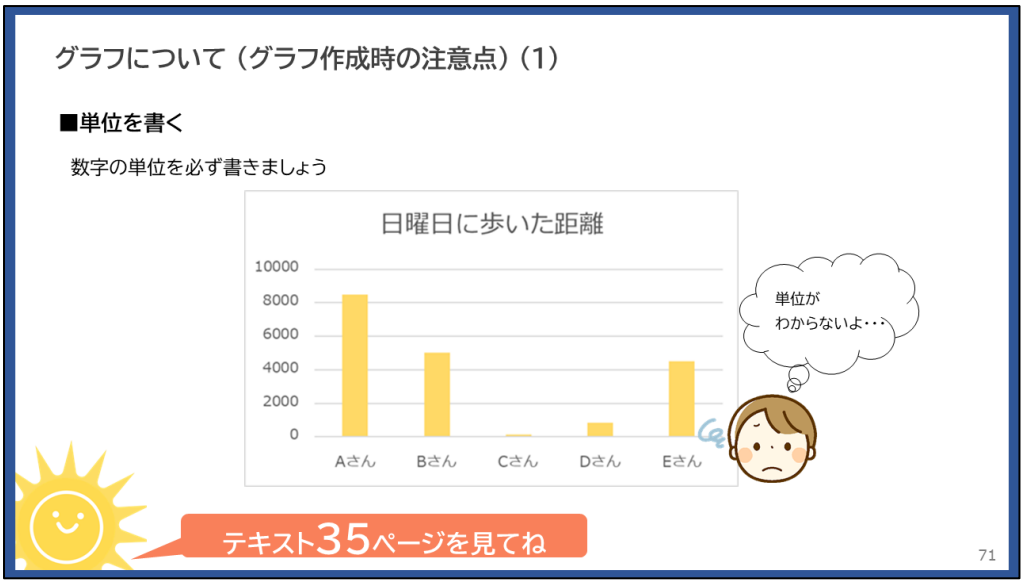
【スライドの簡単な解説】
2019年1月～2019年12月の「東京都の最高気温」と「アイスクリームの月別支出金額」の関係を示した散布図の解答です。

【このページのポイント】
全部データをプロットすると右肩上がりになっているのが分かります。
ここから最高気温が高いほど、アイスクリームの月別支出金額が高くなることがわかります。



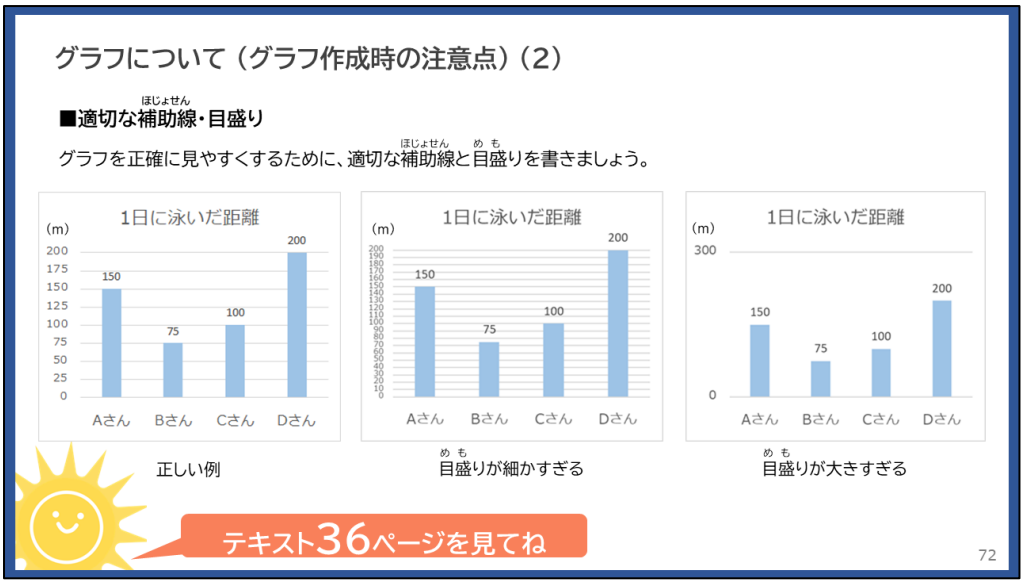
【スライドの簡単な説明】
グラフを作成するときの注意点です。グラフを作成するときは、必ず原点（ゼロ）を書きます。

【このページのポイント】
原点（ゼロ）を書かないと、グラフを正しく比べることが出来なくなります。



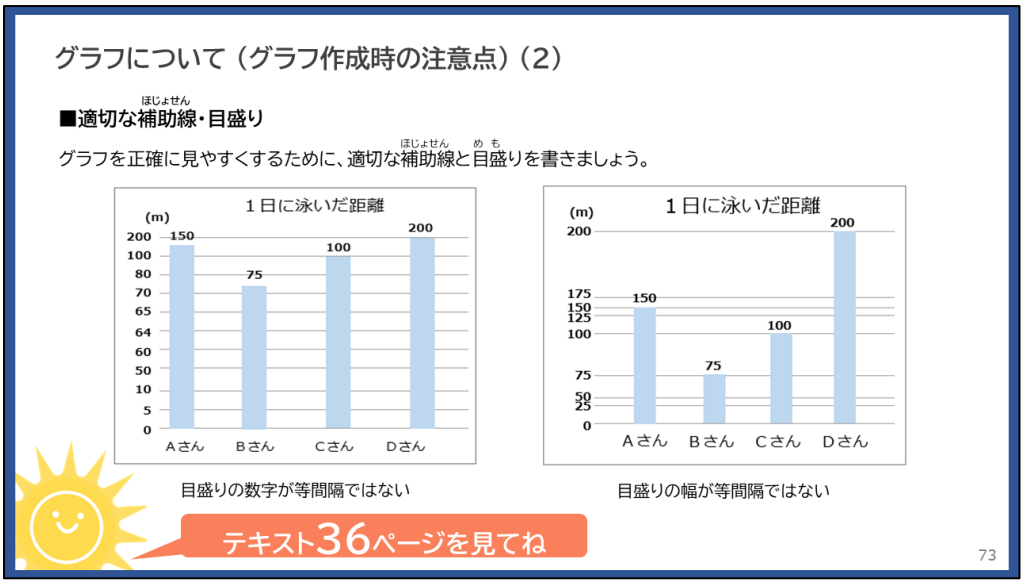
【スライドの簡単な説明】
グラフを作成するときの注意点です。グラフを作成するときは、必ず数字の単位を書きます。

【このページのポイント】
単位が分からないと、グラフを正しく読みとることが出来なくなってしまいます。



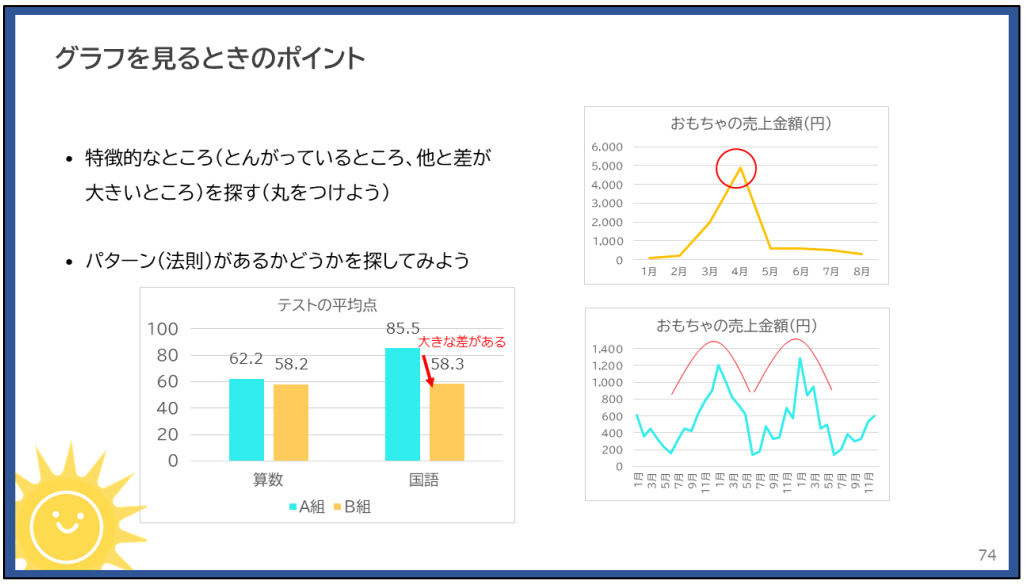
【スライドの簡単な説明】
グラフを作成するときの注意点です。グラフを作成するときは、正しい補助線と目盛りを書きましょう。

【このページのポイント】
目盛りが細かすぎたり、大きすぎたりすると、グラフが見づらくなってしまいます。



【スライドの簡単な説明】
グラフを作成するときの注意点です。グラフを作成するときは、正しい補助線と目盛りを書きましょう。

【このページのポイント】
目盛りの数字と幅は、等間隔に書きます。



【スライドの簡単な解説】
とんがっている、他と差が大きい、規則性(パターン)など、グラフを見るときのポイントについていくつか説明します。

【このページのポイント】
・とんがっている、差が大きい、規則性(パターン)があるなどの特徴があるところには何かが起きていることが多いです。
・特徴があるところに何が起こったのか考えてみると良い気づきを得ることができます。

演習その2（グラフを作成しよう②）

1. グループに分かれて、みんなの数字を聞いてみよう



演習その1でグループのみんなが調べた市町村の面積を聞いて、
4ページの表に記入しよう

★演習その1（ワークシート）

キッズすたっとで調べた数字を記入してね

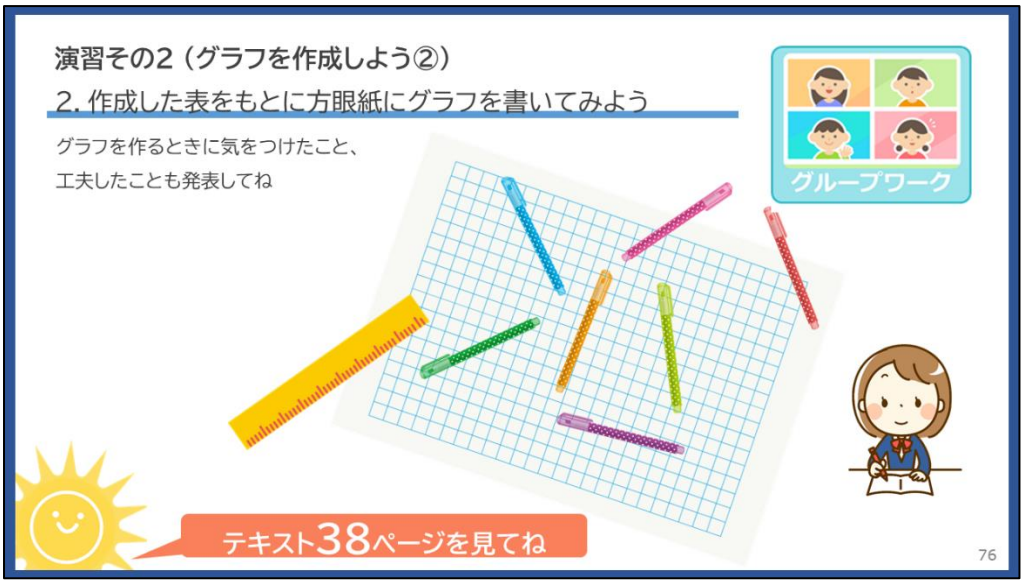
都道府県 【ha】	面積
全国	
（自分の住む都道府県）	
（自分の住む市区町村）	
東京都	
沖縄県	
香川	
岐阜県 飛騨	
岐阜県 高山市	
岐阜県 下呂(げろ)市	
広島県 府中市	19,575

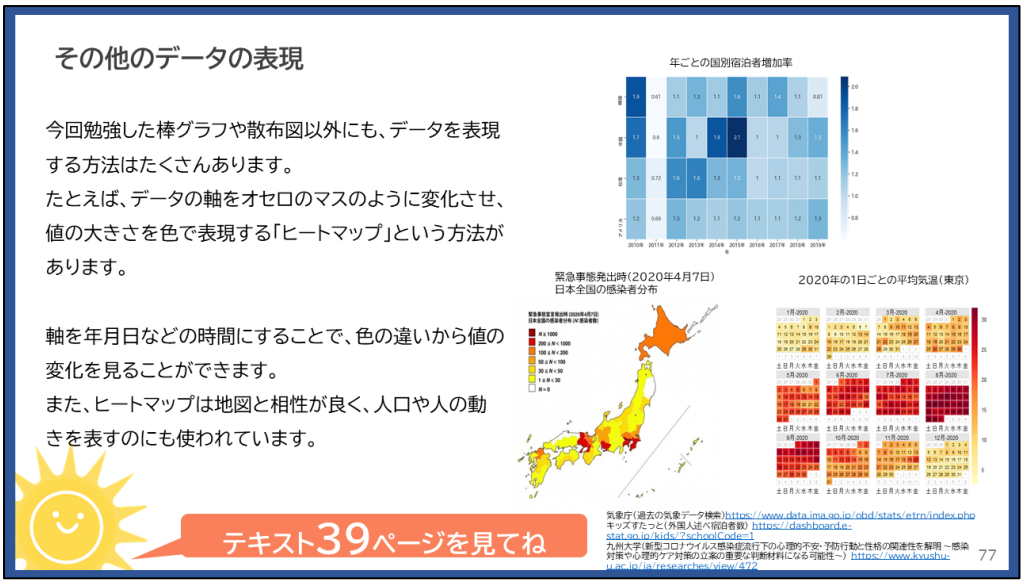
同じグループのお友だちの
住んでいる
市区町村名と**データ**を書こう





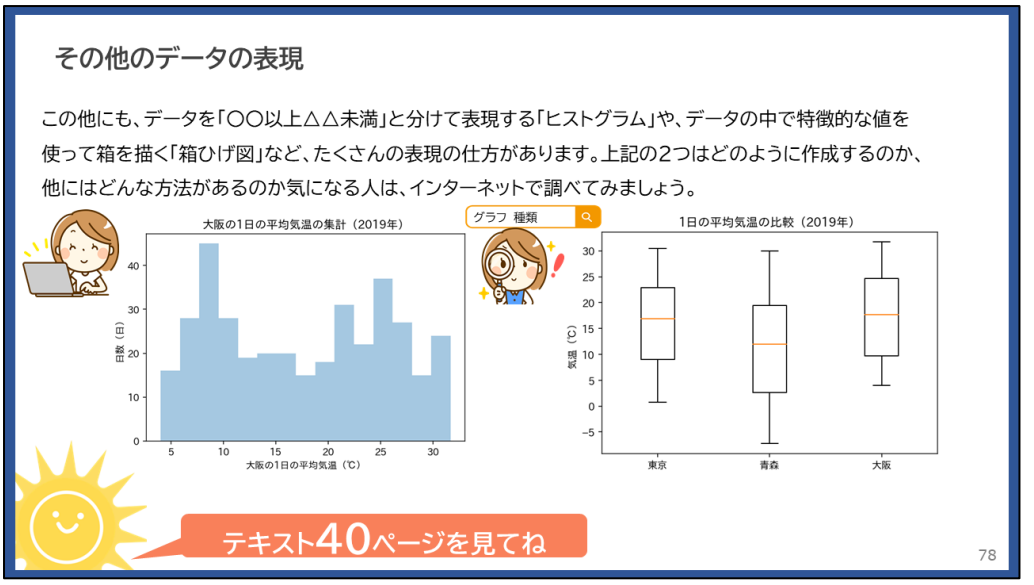
75


演習その2（グラフを作成しよう②）
2. 作成した表をもとに方眼紙にグラフを書いてみよう
グラフを作るときに気をつけたこと、
工夫したことも発表してね
グループワーク
テキスト38ページを見てね
76



【スライドの簡単な解説】
ヒートマップは、方眼紙のマス目の数値に応じた濃淡色で色付けし、データを可視化する方法です。
たとえば、2020年の1日ごとの平均気温をヒートマップで表すと、月ごとの気温が一目瞭然(はっきりと見てとれること)です。

【このスライドのポイント】
ヒートマップは地図とも相性が良く、人口や人の動きを表すのにも使われています。



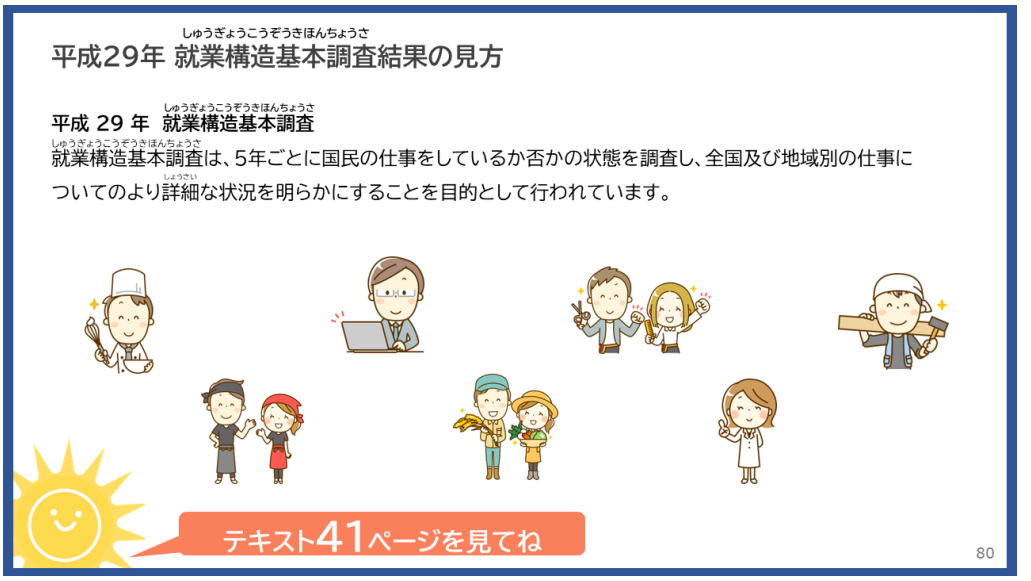
【スライドの簡単な解説】
ヒストグラムと箱ひげ図は、どちらもデータのばらつき具合を示すのに使われます。

【このスライドのポイント】
ヒストグラムは、１つのデータをいくつかの階級に分け、度数の分布を確認する目的で使われます。箱ひげ図は異なる複数のデータのばらつきを比較する事ができます。

休　憩　中

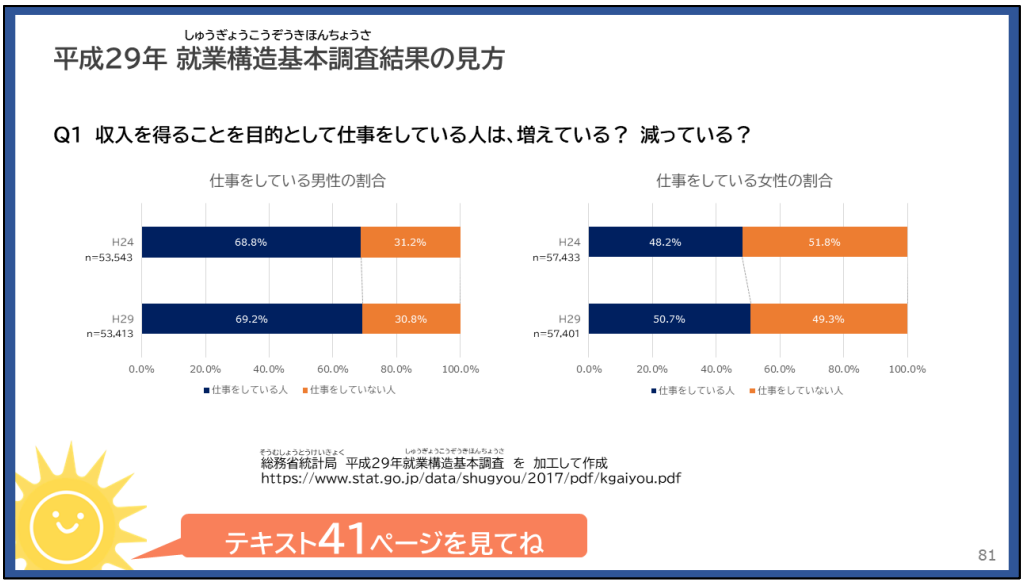
しっかり水分補給して、
ゆっくり休んでね！





【スライドの簡単な解説】
就業構造基本調査は、日本国内に住む人が仕事についているかどうかの調査です。調査は5年ごとに行われ、令和４年（2022年）は実施の年となっています。日本国内に住む人の仕事について、全国及び地域別、年齢別などといったより詳細な状況を明らかにすることを目的として行われています。

【このページのポイント】
令和４年（2022年）は就業構造基本調査が実施される年です。

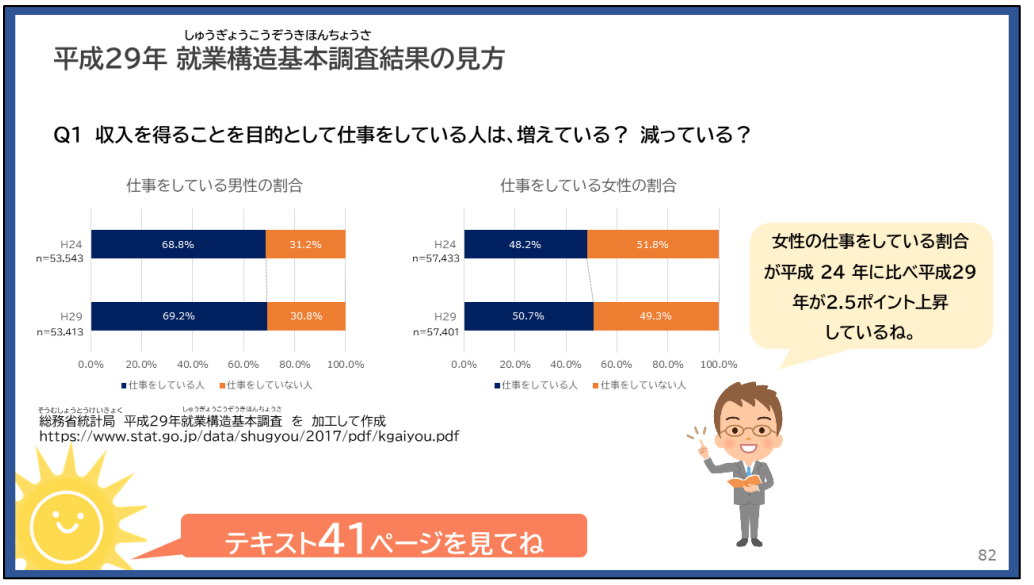


【スライドの簡単な解説】

平成24年(2012年)と平成29年(2017年)における就業構造基本調査の結果を、男女別に分けて比較してみましょう。

【このページのポイント】

平成24年(2012年)と平成29年(2017年)の結果をもとに作成した「仕事をしている男性の割合」と「仕事をしている女性の割合」の帯グラフから読み取れることは何でしょうか。

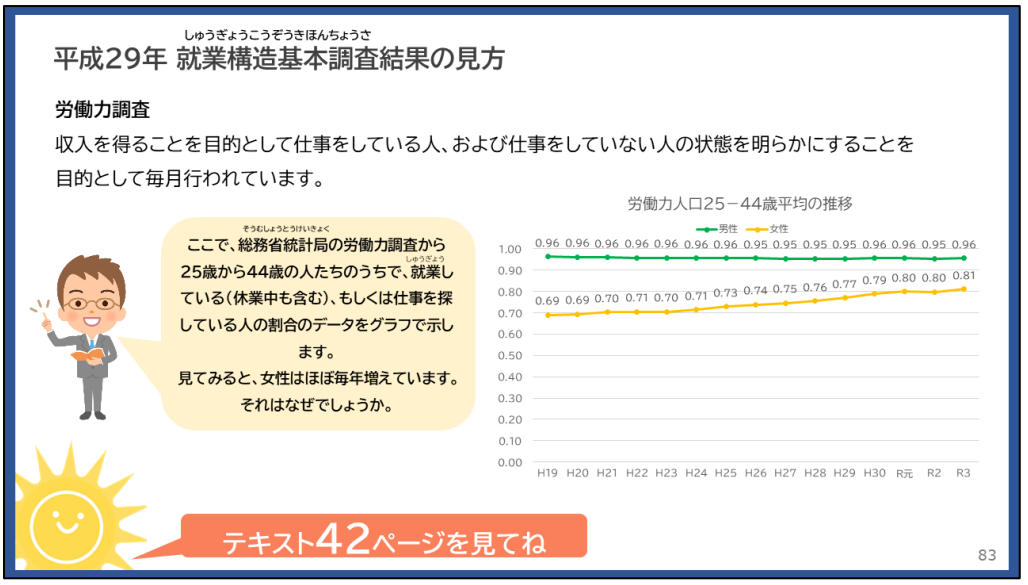


【スライドの簡単な解説】

平成24年(2012年)と平成29年(2017年)を比較した「仕事をしている男性の割合」と「仕事をしている女性の割合」の帯グラフから、「仕事をしている男性の割合」はほとんど変化が見られないが、「仕事をしている女性の割合」は2.5ポイント増えていることがわかります。

【このページのポイント】

男性は平成24年(2012年)と平成29年(2017年)でほとんど変化がありませんが、仕事をしている女性は平成24年(2012年)に比べ平成29年(2017年)の方が増えています。



【スライドの簡単な解説】

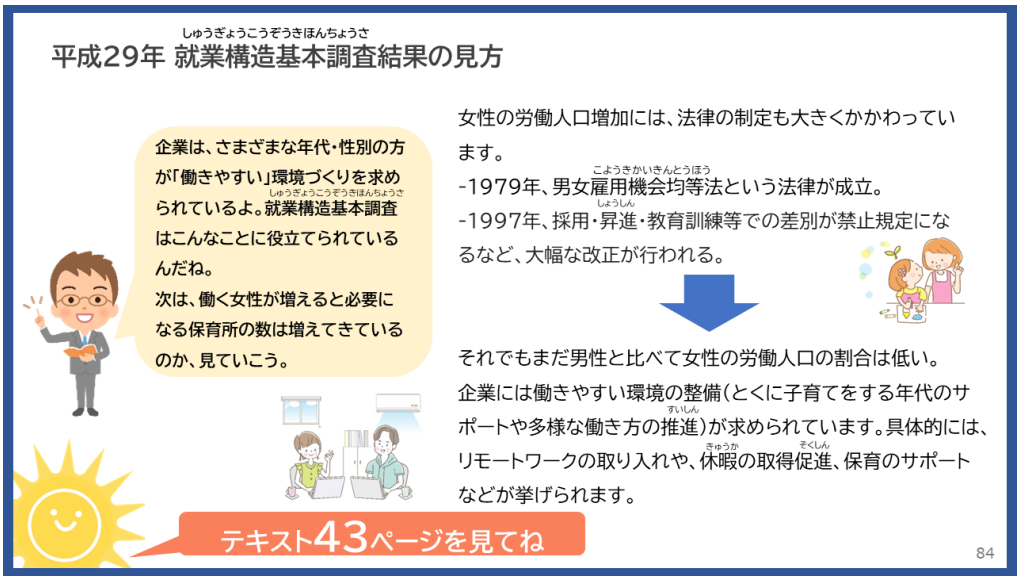
総務省統計局では，就業に関する調査として「労働力調査」も行っています。労働力調査は、統計上の抽出方法に基づき選定された全国約4万世帯の方々を対象に、毎月調査しています。ここでは、お父さんお母さん世代の25歳から44歳に絞り、平成19年(2007年)から令和3年(2021年)までの「仕事をしている人の割合」を折れ線グラフで示します。このグラフから「仕事をしている男性の割合」はほとんど変化が見られませんが、「仕事をしている女性の割合」が年ごとに増えていることが読み取れます。

【このページのポイント】

25歳から44歳までの人たちを対象(たいしょう)にした場合、平成19年(2007年)から令和3年(2021年)までの「仕事をしている女性の割合」が増えています。

【キーワード】

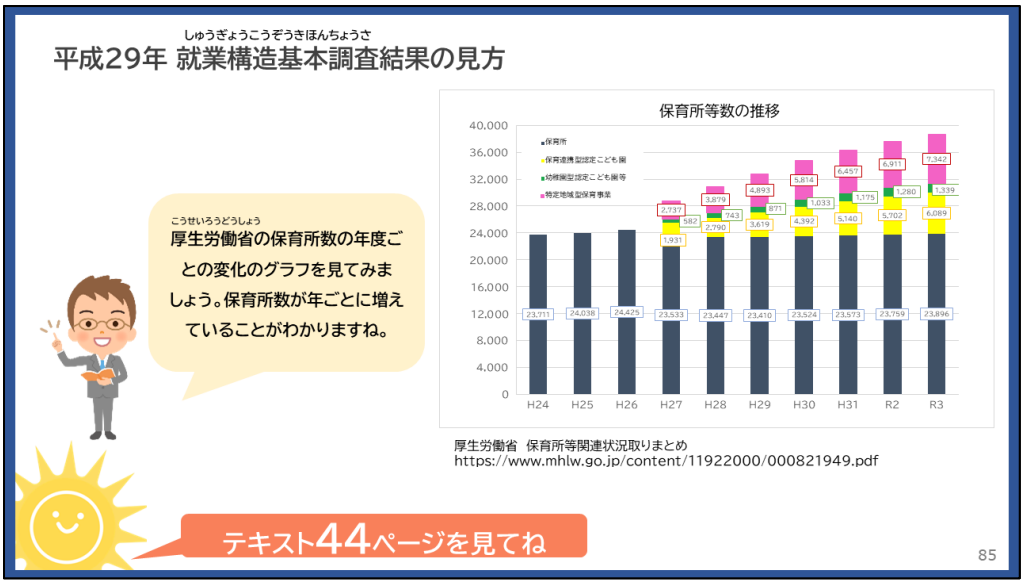
労働力調査



【スライドの簡単な解説】
女性の労働力人口の増加の背景には法律の制定も大きくかかわっており、年々「仕事をしている女性の割合」は増加しています。
就業構造基本調査の結果をもとに、企業には、保育のサポート支援などといった様々な年代・性別の方が「働きやすい」環境づくりが求められています。

【このページのポイント】
年々「仕事をしている女性の割合」が増加している現状から、働く女性の環境を整えることが求められています。

【キーワード】
男女雇用機会均等法



【スライドの簡単な解説】

就業構造基本調査や労働力調査から働く女性の割合が年々増加していることが分かり、働く女性の環境整備が国や地方自治体，企業に求められました。特に、女性の25歳から44歳は子育ての期間です。働いている時間帯に子どもの世話をすることは難しく、保育所や学童保育を利用することになります。

ここで、平成24年(2012年)から令和3年(2019年)までの厚生労働省の保育所数の推移の棒グラフを見てみましょう。平成27年(2015年)から保育所数が大幅に増えていることが読み取れます。就業構造基本調査や労働力調査が示す25歳から44歳の働く女性の増加が、保育所数の増加対策と関係していることが分かることでしょう。総務省統計局が集めたデータは、私たちが社会で暮らしていく上でのさまざまな施策に役立てられているのです。

【このページのポイント】

就業構造基本調査の結果は、国の基本的な方針決定の基礎資料として活用されるほか、地方公共団体における各種施策に役立てられています。

演習その3(「まとめノート」を作ろう！)

本日の学びや気づきをグループ内で発表しよう

グループごとに本日の講座の学びや気づきを発表し合い、
みんなで一つの「まとめノート」を完成させよう。



1ページ目



2ページ目

演習その3(「まとめノート」を作ろう！)

本日の学びや気づきをグループ内で発表しよう



以下の項目についてグループで発表し合い、みんなの意見をまとめましょう。

- 日常で使われる統計データ
- そのデータでどんなことがわかる？
- グラフの種類
- グラフ作成時のポイント
- 気づき・感想(はじめて知ったこと、おもしろいと思ったこと)
- もっと学んでみたいと思ったこと



87

演習その3(「まとめノート」を作ろう！)

まとめノートの内容を発表しよう

作成したまとめノートについて、発表してみましょう！
発表できる方は、Zoom画面下のリアクションボタンから
「手を挙げる」、もしくはチャットでお知らせください。



発表者の担当メンターが、作成した
まとめノートを画面共有するよ

88


おつかれさまでした！
本日はありがとうございました！
この後しばらくはZoomをオープンにしているので、
先生へ質問をしたり、みんなと会話したり自由にお使いください。
このイベントは、後日総務省統計局のサイトにて公開予定です。
先生に質問したり
みんなでお話したり
自由にお使いください！